

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)					
3 進路指導の強化	<p>(現状) ○H30卒業生の雇用を含めた就農率(研修後就農を含む)は29%と過去最低となった。進路決定率は、進路希望に応じた対策・支援を行い、100%となった。</p> <p>○全入学者に占める非農家出身の学生の割合が、過半数を超える状況が続いている。</p> <p>○農業法人等からの求人も増加し、雇用就農を希望する学生も増加しているが、希望する部門と求人が必ずしもマッチしない。</p> <p>(課題) ●大学の設置目的を踏まえた就農率の向上を図る必要がある。 ●非農家出身者でも就農や農業関係団体への就職に強い進学先としての評価を高めるため、進路決定率100%を維持していく必要がある。</p>	就農率 60%(36名)	(1)進路希望の把握と的確な進路指導	(1)進路希望の把握と的確な進路指導	<p>(1)進路希望の把握と的確な進路指導</p> <p>○個別面談の充実 ・6月～7月 本科1年生の進路調査について、指導担当職員による面談を実施</p> <p>・本科1年生及び2年生の進路希望調査結果(随時更新)及び進路状況の共有により就農・就職活動の助言及び支援を実施</p> <p>・親元就農及び雇用就農を希望する本科1年生を対象に、就農計画の作成や雇用就農情報の提供など就農支援を図るため、就農コーディネーターとの面談を実施 面談実施学生数:29名 1/23から随時</p> <p>○就農希望者への支援の充実 ・4月、各農業振興事務所に対し、本科2年生の就農(親元就農、雇用就農等)希望情報を提供</p> <p>○編入希望者への支援 ・6/13 4年制大学編入学説明会を開催(8名) ・12/5 4年制大学編入学合格者による体験談会を開催(2名) ・1/23 4年制大学編入学試験対策ガイダンスを実施(2名)</p> <p>実績 ・宇都宮大学農学部第3年次編入学試験合格(1名) ・日本農業経営大学校入学試験合格(1名)</p> <p>○資格取得の支援 ・農業機械基本実習の開催 ・資格取得教養講座(毒劇物取扱者、ワープロ検定、英会話等)の開設・取得 ・ワープロ検定2級(1名)、危険物取扱者(1名) ・希望者を対象とした資格取得講座の紹介と幹旋・取得 ・フォークリフト(8/6～9,12名)、アーク溶接(8/19～21,7名)、ガス溶接研修(8/1～2,14名)、日本農業技術検定(12/14,2級2名、3級14名合格)、狩猟免許(1名)</p>	<p>B (30名/36名=83.3%)</p> <p>A (57名/59名=96.6%)</p> <p>※評価基準 A: 90%以上 B: 70%以上90%未満 C: 50%以上70%未満 D: 50%未満</p>	<p>(1)進路希望の把握と的確な進路指導</p> <p>○個別面談の充実</p> <p>・指導担当職員に指導業務が偏っているため、学生の希望及び就活状況をデータベース化して、農大職員全員が指導できるようにしていく。</p> <p>○就農希望者への支援の充実 ・雇用就農等の情報提供が少なかったため、各農業振興事務所や栃木県農業法人協会との連絡を密にし、就農に関する地域の情報提供を依頼していく。</p> <p>○編入希望者への支援 ・就農経路が多様化する中、就農希望者がより高度な教育を受けて資質の向上を図ることは重要である。このため、早期に説明会等を開催し編入学に係る理解促進を図るとともに受験準備への動機付けを行う。</p> <p>○資格取得の支援</p>	<p>・学生のうちに取得しなくてはならない資格は、全て取得させてあげられるよう、バックアップをしていたきたい。(再掲) ・酪農ヘルパーのなり手が不足している状況から、農大においてその資格を取得するための講座を行って、就職に繋げてほしい。</p>
		進路決定率 100%(59名)	(2)就農イメージの早期確立	(2)就農イメージの早期確立		<p>(2)就農イメージの早期確立</p> <p>○先進的経営体実習等の活用 ・8/26～9/27 1年先進的経営体実習の実施 派遣先数:56</p> <p>・11/8 就農シンポジウムの開催 講師数:5名、参加学生数:59名</p> <p>・農振及び農業公社等と本科2年生の雇用就農情報の共有化を図り、雇用就農先の新規開拓と求人希望法人に対する本年度の求人情報の確認と提出依頼</p> <p>○農業生産法人等へのアプローチ ・雇用就農や親元就農に参考となる農業法人等に対し、校外学習を実施 農業経営学科 8回 園芸経営学科 9回 畜産経営学科 13回</p>		

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)				
			<p>(3)就農等斡旋機能の強化</p> <p>○求人情報等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料職業紹介事業を活用した求人情報や合同企業説明会等の情報をデータベース化し、学生が常時閲覧できるようにするとともに、学生の進路希望に応じた情報提供とインターン等の斡旋を勧める。</li> <li>・農業振興事務所及び県農業法人協会等と連携を図り、農業生産法人情報の収集と学生への提供を実施する。</li> <li>・就職活動を実施した学生に対する「就職活動報告書」の作成指導及び既存報告書を活用した就農・就職指導を実施する。</li> </ul> <p>○就農・就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に求人があった企業・法人に対して、求人の確認や求人票の提出を依頼するほか、校外学習の開催やインターンシップへの参加等を斡旋するなど就農・就職支援の充実を図る。</li> <li>・就農を希望する学生が経済的に不安なく農大で学べるようにするため、農業次世代人材投資事業(準備型)の紹介と活用支援を実施する。</li> <li>・求人票を提出した法人等と雇用就農を希望する学生による雇用就農相談会を開催し、雇用就農に対する理解促進と学生と法人とのマッチングを図る。</li> <li>・農大において、農業関連企業の説明会を開催し、就職等の斡旋の機会を設けるとともに、学生と企業とのマッチングを図る。</li> </ul>	<p>(3)就農等斡旋機能の強化</p> <p>○求人情報等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当校あてに提出された雇用就農、就職等に係る求人票をデータベース化するとともに学生がいつでも閲覧できるように進路指導室に求人票ファイルを常備</li> <li>・各種インターンの周知と斡旋</li> <li>・農業生産法人情報の収集と学生への提供</li> <li>・関係機関及び団体等に対し、雇用就農先の新規開拓を依頼 県内生産法人等からの求人数：25法人</li> <li>・就職活動をした学生に対する就職活動報告書作成の指導及び就職等を希望する学生に対し、就職活動報告書を活用した個別指導を実施</li> </ul> <p>○就農・就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用就農先の確保を図るため、法人等に対する求人の確認や先進的経営体実習、校外学習及び卒業生等からの求人情報を収集</li> <li>・オープンキャンパスやオリエンテーション等で農業次世代人材投資事業(準備型)を紹介し関心を持った学生4名に個別説明を行い、本科では2年生2名が受給中。</li> <li>・11/29 企業経営研修会(雇用就農相談会)の開催 参加生産法人等数：19、参加学生：59名</li> <li>・5/16、5/29 本科2年生の就職を推進するため、校内企業説明会を開催 3社参加</li> </ul>		<p>(3)就農等斡旋機能の強化</p> <p>○求人情報等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の要望に応えられるだけの雇用就農先の確保ができなかったため、新たな雇用就農先の開拓を関係機関・団体と連携して進める。</li> <li>○就農・就職支援</li> <li>・学生の要望に応えられるだけの雇用就農先の確保ができなかったため、求人に関する情報収集及び提供を推進する。</li> <li>・準備型については国予算大幅減に伴い次年度も本科学生は新規認定が厳しい状況であるが、引き続き個別相談を実施し支援していく。</li> <li>・参加法人は半数が畜産関係で偏りがあったため、次年度は土地利用型及び園芸関係法人の参加を促す。</li> <li>・すべての要望には応えることができなかったため、学生及び農業関連企業の要望に対応できるよう調整を図る。</li> </ul>	